

## 令和2年2月18日（火）「第9回地域づくり小委員会」が開催されました。

### ■開催概要

「第9回 地域づくり小委員会」が令和2年2月18日（火）に釧路地方合同庁舎5階共用第1会議室で開催されました。

小委員会には、28名（個人12名、団体12名、関係行政機関4機関4名）が出席し、一般の方も傍聴されました。

議事では、はじめに「利活用の取り組み」として国立環境研究所生物・生態系環境研究センターの亀山主任研究員より「周遊マルチパーパストレイル」の提案が行われた後、カヌーガイドライン（作法・マナー）の取り組み方針やPR・発信方法などについてディスカッションが行われました。



▲第9回 地域づくり小委員会（令和2年2月18日）

## 1 利活用の取り組み 1

### ◆亀山委員からの話題提供

以前の小委員会で「周遊マルチパーパストレイル」を提案したが、釧路湿原を周遊する形で多目的に使えるトレイル（小道）があれば有効活用ができるのではないかとということで、未利用地の利用パターンを考えている。最終的には2050年のこの地域のデザインとして、自然共生社会、あるいは環境省のいう地域循環共生圏というようなことを具体的に実装したいと思っている。日本の2050年を考えるにあたり、湿原に負荷が少なく、地域住民が健やかに暮らせ、気候変動や人為的影響も緩和した優しい地域を作っていきたい。

ここで、土地利用デザインシステムという地図作りの道具を活用し、「サルルンカムイの道」というものを提案したい。その道具とはグーグルアースプロというソフトアプリで、地球上の全ての場所のデジタルマップを作成できるというもの。必要な方にはサンプルデータ提供するので、ぜひソフトウェアを使って、自分自身のマルチパーパストレイルを描いたり、使い勝手の良さや面白さに触れてほしい。

本論に戻って、昔は農地だったけれども今は手が回らなくなって、農地として機能しない場所が増えている。それをもう一度どうにかデザインし直さないといけないのではないか。牧草地は牧草地として、畑は畑として、森林であれば更新するのもいいし、手がつけられなくなったら二次林に返すのも良いと思う。そこで、将来に対して一番大きく変わり得るのが未利用地ではないか。ここは自然再生の場なので、自然再生のための候補地を探し、自然再生のために使える場所にするのも良いかと思う。

道を作ったら何かが生まれるのではないかと考えている。ここにしかないというツーリズムが絶対にあるはずなので、そういう豊かさに出会える道として、ぜひサルルンカムイの道を考えてほしい。それをまた、次世代の方に呼びかけていきたいし、彼らがここに住みたいと思える魅力ある地域づくりについて、まず話し合うことではないだろうか。

## 2 小委員会の取り組み

事務局からの発表と委員からの意見交換・提案が行われました。

### 議論された主な内容

●委員 ●事務局

- カヌーのガイドラインについて、タンチョウやカワセミなど川の周辺に住む鳥類について利用者がどう配慮していくかが問題。タンチョウの研究者等からよく話を聞いてガイドラインに反映し、利用することと保全することが一緒に記載されていくように願いたい。カヌーポートやトイレなど設備の問題もしっかりと議論し、計画性をもって取り組んでいくことが必要。また、危険箇所などについては常に新しい情報を出していかなければならない。これらのこともお願いしたい。
- 環境や安全に関することについては専門家の意見を聞きながらガイドラインをまとめていきたいと考えている。施設に関してはグループヒアリング等の中で実情を踏まえて相談しながら検討していきたい。
- 今の来訪者はスマートフォンで情報を集めてくるので、さまざまな情報をスマートフォンの地図に届ける仕組みを作してほしい。
- 過去にいただいたQRコードを現地に設置するというアイデア等も含め、グループヒアリングの中で詰めていきながら浸透させていくことが重要と思っている。
- 釧路湿原のブランドイメージがどのようなものなのかをはっきりさせたほうが良い。湿原があってこそこの地域の価値を感じ、守り、また再生しながら暮らしていることをブランドとして具体的に打ち出すことができると良い。
- ブランド化の問題について、地域として大切にしている自然だからこそブランド価値があるという観点から伝えていこうということで、更新内容でもそういう部分を新規に盛り込もうとしているところだ。伝え方やさまざまな工夫という点では、なるべくグループヒアリングの中で皆さんの協力を得ながら最大限できることを上手く広げていきたいと、今準備作業を進めている。

### 3 利活用の取り組み2

委員からの意見交換・提案等が行われました。

#### 議論された主な内容

●委員 ●事務局

- 農業施設の見学会などは、本当に見せられるブランドの部分だと思うが、施設内に入るときに洗浄・除染をきっちりするという対策が必要。最初に然るべき対策を取ったうえで招き入れ、施行するというやり方が良いと思う。
- 今回も長靴にビニールシートを被せるなどの対策を相談したうえで実施している。引き続き留意して進めていきたい。
- 2回目の利用計画の中で、釧路湿原を一周できるフットパスやホーストレイルのライディングコースなどは既に提案が出されているが、これはできない、あれはできないという「D○」の現場があるということなら、このD○は決して先に進まない。世界に目を向けた釧路湿原のD○が何なのかということ、みんなでもっと真剣に議論するべきだ。
- 小委員会の中でできることをまず推進していこうと考えているので、ご意見、プラン等をお持ちの方は、事前に事務局等に言っていただければ、こういった場を活用してご提案して進めていただくということを考えている。

### 4 その他

事務局からの提案に対して委員との意見交換が行われました。

#### 議論された主な内容

●委員 ●事務局

- これまでのワークショップ等で委員から出されたアイデアの中に「気球」があった。単純に湿原を空から眺めたら面白いのではないかと。さらにそのことが地域の子供たちにどう繋いでいくかという話にも繋がっていくと、まさに地域づくり小委員会だと思う。今年ラムサールの40周年記



念ということで、面白いタイミングでもある。実施主体や資金の問題など課題も多いが、何とかできないかと地域づくり小委員会を裏でサポートしながら考えているところだ。

- ドローン、気球、ヘリコプターは騒音の問題が非常に大きい。営業中のタンチョウを脅かすようなドローンがいるという話も聞いている。釧路湿原の「静」という大きな魅力を大切に考えていただきたいと思う。
- 厳しいことを言うようだが、国立公園を管理している環境省としては、場所や時期など十分に考えていただきたい。
- 不毛の大地と言われたこの釧路湿原を活用することが地域を活性化することだと私たちは訴え、各首長さんたちの合意を得た。それからすると、地域に還元することが先にあるはずだ。地域に還元するというコンセプトがあって、その結果としてプランがあり、D○があるのではないかと。この「地域に還元」が一丁目一番地にならないと、この話は進んでいかない。
- 今回の提案は、自然再生をやっていることが地域にどう繋がっているかということ、事務局は考えないといけないうことがもともとの発想で、同じ方向だと思っている。

## 第9回地域づくり小委員会 [出席者名簿 (敬称略、五十音順)]

#### 個人 [12名]

亀山 哲	清水 信彦	野本 和宏
神田 房行	新庄 興	平間 清
木村 勲	高橋 忠一	渡辺 剛弘
櫻井 一隆	中村 研二	鈴木 信

#### 団体 [12団体/12名]

一般社団法人 釧路観光コンベンション協会 [専務理事 山田 達也]  
王子ホールディングス株式会社 [帯広営業所長 篠原 雅人]  
釧路川カヌーネットワーク [会長 小川 清史]  
釧路川流域町村観光推進協議会 [事務局 下向 渉]  
釧路観光連盟 [専務理事 長沼 大平]  
釧路湿原国立公園連絡協議会 [事務局次長 元岡 直子]  
公益財団法人 北海道環境財団 [事務局次長 久保田 学]  
こどもエコクラブくしろ [近藤 一燈実]  
特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所 [渡會 敏明]  
特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ [井上 雅子]  
特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村 [理事・事務局長 佐藤 吉人]  
道東のイトウを守る会 [事務局長 田中 正]

#### 資料の公開方法

ホームページにて公開しています。

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>

#### ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。  
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

## 釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL(0154)23-1353

FAX(0154)24-6839